

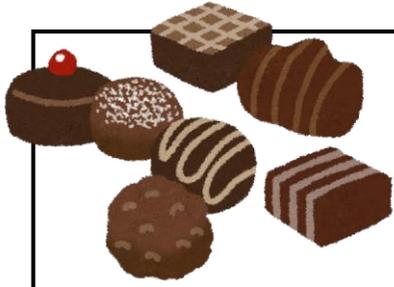
やまびこ

360

令和7年2月1日
 鶴岡市立図書館
 鶴岡市郷土資料館
 〒997-0036
 鶴岡市家中新町 14-7
 TEL (図)25-2525
 (郷)25-5014
 FAX 25-2526



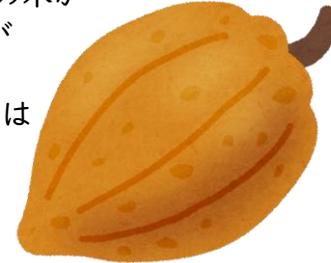
2月といえば!



チョコレート!...という気がしませんか?バレンタインデーの行事自体は関係なくても、おいしそうなチョコレートは1月中からどんどん目に入ってきていますよね。いろんな飲食店で販売される期間限定のチョコレートを使った新商品や、お店の特設コーナーなど、チョコレートのいい匂いにつられてつつい手が伸びてしまいます。

バレンタインデーである2月14日は、キリスト教で恋人たちの守護聖人である聖ウァレンティヌスの命日です。ウァレンティヌスは、当時のローマ皇帝が禁じていた兵士の結婚式を禁止命令に背き執り行っていたため2月14日に処刑されてしまった...という逸話から恋人たちの守護聖人となり、その命日をキリスト教圏では恋人や家族に贈り物をする日として祝うようになったようです。その習慣が日本にチョコレートを贈るという独自のカタチで定着したのは1970年代頃からです。起源は諸説ありますが、チョコレート会社が販売戦略としてバレンタインデーにはチョコレートを贈ろう!と宣伝を始めたのがきっかけとされています。今ではこの独自の習慣によるチョコレート市場の活況を知った一流ショコラティエたちが、バレンタインデーにあわせてブランドを立ち上げたり新作を発表したりするなど、日本は世界中を巻き込んだチョコレートのお祭り会場になっています。

...という甘い話だけではないのが近年のチョコレート事情。原料であるカカオ豆は、主産地のカカオの木が気候変動による干ばつと大雨の繰り返しで弱ってしまい、病気になって木が枯れ、不作が続く...価格が高騰し2年で4倍くらいの値段になっているそうです。病気の治療法はなく、枯れた木は燃やすしかないうえに、新たに木を植えても収穫までには3・4年かかることから、いつ元通りの収量になるかの見通しはつかない状況です。これからもおいしいチョコレートを食べ続けるために、身近なところから環境を守る行動ができたらいいですね。



図書館にある「チョコレートの本」

◎チョコレートでつくる!

- 『化学的ポイントを知るとおいしい&作りやすいチョコレートレシピ』
sachi_homemade(2024)
- 『1年生からのらくらくレシピ
チョコレートスイーツ』
若宮 寿子/監修(2022)
- 『チョコレート・パイブル』
青木 裕介(2022)
- 『チョコレートのお菓子』
坂田 阿希子(2019)
- 『チーズケーキとチョコレートケーキ』
(2016)

◎チョコレートを読む

- 『ありふれたチョコレート』
秋川 滝美(2013)
- 『銃とチョコレート』 乙一(2006)
- 『チョコレートの町』
飛鳥井 千砂(2010)
- 『ピンクのチョコレート』
林 真理子(1994)
- 『ブラッド・アンド・チョコレート』
菅原 和也(2016)
- 『夜空に泳ぐチョコレートグラミー
大活字本シリーズ』
町田 そのこ(2024)

◎チョコレートのおはなし

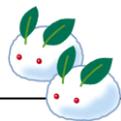
- 『ルルとララのチョコレート』
あんびるやすこ(2007)
- 『ルルとララのガトーショコラ』
あんびるやすこ(2021)
- 『ミライチョコレート』
ザ・キャビンカンパニー(2024)
- 『でんせつのチョコレート』
みやにし たつや(2022)
- 『夢をかなえて!ウィッシュ・チョコ』
フィオナ・ダンバー(2007)
- 『おそなえはチョコレート』
小森 香折(2003)

やまびこ号の次回巡回日は

月 日です



2月の新着案内



リクエスト・予約開始は 2月21日(金) です

◎小説・エッセイ

- 頼朝 (秋山 香乃)
- モノの宝箱 (一色 さゆり)
- 他人屋のゆうれい (王谷 晶)
- 天使たちの課外活動 11 (茅田 砂胡)
- 任侠梵鐘 (今野 敏)
- 遥かな夏に (佐々木 譲)
- もどき友成 (佐伯 泰英)
- 新たな明日 (佐伯 泰英)
- ゲーテはすべてを言った (鈴木 結生)
- 梅の実るまで (高瀬 乃一)
- 呪いのシンプトム (知念 実希人)
- 初心の業 (堂場 瞬一)
- 秘仏の扉 (永井 紗耶子)
- ヒポクラテスの困惑 (中山 七里)
- 迷うな女性外科医 (中山 祐次郎)
- 二十四五 (乗代 雄介)
- 蕎麦打ち万太郎 (原 宏一)
- ロスト7 (真山 仁)
- 潮音 第1巻 (宮本 輝)
- 公孫龍 巻4 (宮城谷 昌光)
- PRIZE (村山 由佳)
- 雑草と恋愛 (群 ようこ)
- 風の港 (村山 早紀)
- セルフの死 (本谷 有希子)
- 名探偵の顔が良い (森 晶麿)
- 幕末期の笑話本 (宮尾 與男)
- ひとりの道をひた走る (銀色 夏生)
- キミコのよろよろ養生日記 (北大路 公子)
- 人生の扉をひらく鍵 (中山 祐次郎)
- 本日、東京ラプソディ (中野 翠)
- 西遊記事変 (馬 伯庸)

◎実用書

- 相補曲線 (土井 棟治朗)
- 学生時代に学びたい情報倫理 (鞆 大輔)
- パソコンで困ったときに開く本 2025
- わたしの、本のある日々 (小林 聡美)
- 信頼と不信の哲学入門 (キャサリン・ホーリー)
- 国家について 法律について (キケロー)
- 移動する人はうまくいく (長倉 顕太)
- るるぶお伊勢まいり [2025]
- 一冊でわかる大正時代 (大石 学)
- 蔦屋重三郎と吉原 (河合 敦)
- 考える。生きるために、考える。(養老 孟司)
- 愛子さま女性天皇への道 (高森 明勅)
- 警察・スパイ組織解剖図鑑 (加賀山 卓朗)
- なにがあっても、まあいいか (樋口 恵子)
- 老いてもヒグチ。 (樋口 恵子)
- みんなの高校地学 (鎌田 浩毅)
- 巨大地震 (遠田 晋次)
- ホモ・サピエンス再発見 (ポール・ペティット)
- アイドリング脳 (井ノ口 馨)
- SF脳とリアル脳 (櫻井 武)
- 100年骨 (斎藤 充)
- ゴミうんち (竹村 眞一)
- ニッポン茶室ジャーニー (藤森 照信)
- 居酒屋蔦重 (車 浮代)
- 日本の犬 (武井 哲史)
- そういうゲーム (ヨシタケ シンスケ)
- レオ・レオーニと仲間たち (松岡 希代子)
- 力道山 (斎藤 文彦)
- 俺の文章修行 (町田 康)
- 谷村新司詩集 (谷村 新司)

◎児童書

- AIにはない「思考力」の身につけ方 (今井 むつみ)
- 科学でさぐる日本人の図鑑 (秋道 智彌)
- 蔦屋重三郎 (楠木 誠一郎)
- となりのヤングケアラー (村上 靖彦)
- SNS時代のメディアリテラシー(山脇 岳志)
- 月のサバイバル (洪 在徹)
- ◎絵本
- おやつどろぼう (阿部 結)
- とつとこびと (新井 悦子)
- カレーライスだいすき (荻田 澄子)
- おだんごとんリベンジ (ガタロー☆マン)
- ひみつのおすし屋さん (黒岩 まゆ)
- そらのゆうえんち (くまくら 珠美)
- しごとってなんだろう (細川 貂々)
- おるすばん (森 洋子)

新着図書は右記以外にもありますので、お気軽にお声がけください。新刊は、ホームページでもご覧いただけます。



= 今月の誕生鳥 =



オウム



インコと混同されることが多いが、一般的に大型で冠羽を持つものがオウム。オカメインコは名にインコとあるがオウムの仲間。

～オウムを知る本～

・『インコ・オウムの心を知る本』
細川 博昭／著

・『マンガでわかるインコ・オウムのきもち』
BIRDSTORY／マンガ・イラスト